

太田靖利 学位論文審査要旨

主 査 山 本 一 博
副主査 渡 邊 達 生
同 小 川 敏 英

主論文

The evaluation of cardiac tamponade risk in patients with pericardial effusion detected by non-gated chest CT

(非心電同期胸部CTを用いた心嚢液貯留患者における心タンポナーデリスクの評価)

(著者：太田靖利、三好史倫、神納敏夫、嘉悦泰博、小川敏英)

平成27年 Acta Radiologica DOI:10.1177/0284185115592272

参考論文

1. Fibrillin gene (FBN1) mutations in Japanese patients with Marfan syndrome

(日本人Marfan症候群患者におけるフィブリリン遺伝子 (FBN1) 変異)

(著者：千酌浩樹、山本俊至、太田靖利、難波栄二、長田佳子、二宮治明、檜崎晃史、加藤達生、久留一郎、小野公誉、田中宜之、黒田弘明、應儀成二)

平成12年 Journal of Human Genetics 45巻 115頁～118頁

2. 大網裂孔ヘルニアの3例

(著者：太田靖利、堀郁子、金治新悟、吉岡宏、謝花正信、小川敏英)

平成19年 臨床放射線 52巻 1270頁～1275頁

3. 冠動脈バイパスグラフト術後のCT所見

(著者：太田靖利、藤井進也、橋本政幸、神納敏夫、小川敏英)

平成20年 臨床放射線 53巻 1223頁～1230頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は中等度以上の心嚢液貯留患者において、非心電図同期胸部CT画像での心血管系の構造変化の指標を取り上げ、その指標による心タンポナーデの診断能を検討したものである。その結果、心嚢液貯留、右室流出路圧排および円形に近い下大静脈の各指標は、臨床的に有用な心タンポナーデ診断の所見であることが判明した。本論文の内容は、日常診療にて用いられる一般的な非心電図同期胸部CT所見から心タンポナーデを診断できる可能性を示しており、明らかに学術水準を高めたものと認める。